



# 神戸の詩

電雲到来

六甲山・天覧台より

PHOTO  
MASAO KOBAYASHI



# 旧居留地散歩③②

PRODUCED BY KOBE DAIMARU



## ラ・ペルラ

神戸市中央区明石町30

TEL(078)333-4092

営業時間/11:00AM~8:00PM





ラ・ペルラ/ブロック30パートII

ロマンティックな神戸のクリスマスイブ、うきうきするバカンスの計画……。心はずむシーズンのはじまり。ハイクオリティのインナーウェアで世界的に名高い、イタリアの「ラ・ペルラ」からは、ニューコレクションが届けました。パーティーシーンを魅惑的に演出するドレッシーな<リトモ・ディ・ペルラ>。紳士用ギフトに最適なく<グリジオ・ペルラ>。そしてスィムウェアライン<ラ・ペルラ>からは南の島やホテルのプールにふさわしい華麗なアイテムの数々。「ラ・ペルラ」で、ドラマティックな冬を探してください。



●ラ・ペルラマーレ  
水玉ワンピース ……………各 33,000円  
(ナイロン79%・ポリウレタン21%)



●リトモ・ディ・ペルラ  
スリップドレス(ポリエステル100%) …… 63,000円



●グリジオ・ペルラ  
ガウン(ウール100%) …………… 52,000円

※表示価格の3%を消費税として別途頂戴いたします。





## 藤本ハルミ対談

# 日本人の心に ぴったりにくる 洋服づくりを

(作家)

## 新井満さんと語る



おふたりの最初の出会いは、兵庫税務署の座談会。「一緒に出席したミス兵庫の顔は失念しましたがハルミさんの姿はしっかり僕の脳裏に

刻みこまれてしまいました」と18年前を振り返る芥川賞作家の新井満さん。森敦氏の「月山」を組曲にしたレコードが発売されたところで「月刊神戸っ子」の小泉さんから素敵な人がいるからと「アルファベット・アヴェニュー」のLPとともに聞かされた藤本ハルミさんは「この人にファッションショーの音楽を頼もう」とすぐ決めたそうです。

## 「流れる季節に」で確立した 自然とオリジナリティ

藤本 私が雪が好きで、空からチラチラふってくる雪がいいっていったら、満さんが「雪なんてそんなもんじゃないよ。」ってフフフンって笑いながら言ったわねえ。

新井 ハルミさんの場合は楽天的といってもい

くくらい、大自然を愛していらっしゃる。自然を敵対視したことなんかないでしょう。いつも自分の味方とおもっているでしょう？

藤本 思ってるわねえ。京都の呉服屋さんがいった話なんだけど、最近長期の休暇を取れっていうでしょう。ヨーロッパの寒い土地とか太陽の日照時間の短いところにいたら、一カ月も二カ月も南の太陽にあたりたくなるけど、我々みたいにいじっと同じ所にいても春には花も咲くし夏には強い太陽も照るし、秋風が吹いて、冬には雪も降る。神戸は、どこへも行かずにリゾートしてるっていうのよ。四季に恵まれてる幸せというのかなあ。

新井 なにしろ僕は雪国新潟の生まれですから雪にも様々な姿があることを知っています。ところがハルミさんは雪はやわらかくて、ふわふわあとしたものだとかメルヘンチックに思っているらしい。屋根の雪おろしをしないと家をつぶしてしまう重い雪でもないし、道路をぐしゃ

ぐしゃにしてどす黒く汚れている雪でも決してない。いつまでも純白で美しいわけです。「流れる季節に」はタイトル通り春夏秋冬が流れていき、また花の春が巡ってくる。美しく、そしておだやかな季節の移ろいです。そういうハルミさんの自然観というのは、実はおかたの日本人が万葉集の時代から抱きつづけてきた文学的な自然観なんです。ところが都市化した現代日本からはものすごいスピードで失われている自然観でもある。だからかえて新鮮だった。忘れかけていたけれど、こういう美しい世界もあったんだと、音楽を担当させてもらいました。優れて伝統的な、日本人が昔から抱いていた自然観。それをそのまま再現するために稲妻、雨の音、せせらぎやあるいは蟬の鳴き声、そういうまことに文学的なS・E・(音響効果)を使ってショーの音楽を構成したんですね。

藤本 確かにね、古典のなかでも春夏秋冬が流れてくる間に物語がいっぱいあるから、それに共感したんじゃないかしら。服部良一先生がまだご健在で「これほど作品の一点一点にマッチした素敵な音楽がついた、ファッションショーは初めて」とすごく褒めてくださった。あのころにしては早かったわよね。

新井 そうですね。当時の音楽シーンとしては誰も考えないような実験や冒険をやってましたからね。苦しいけれど楽しかった。

藤本 ファッションショー、大好き！苦しみより楽しい想いのほうが強い。

新井 他にハルミさんのような着尺の洋服仕立てファッションを発表してる人はいたんですか

藤本 いなかったわねえ。

新井 いなひとなんと文句の付けようがない。

藤本 あはははは。そうかもしれないわね。

まあ、これまでに一点二点と手掛けた人はいたし、日本人デザイナーであれば、一度は興味を持ったと思いますよ。

新井 アーティストの才能というものは作品にとりかかる前にもう決まってるものなんです。

ハルミさんの作品がなぜすぐれているかという、ブランドニューであつたから。一つのジャンルを確立なさったから。私の師匠である森敦さんは「ジャンルを確立しなければいけない。ジャンルを確立できないぐらいなら、もの作りなんかやめた方がいい。そんなものは芸術家といえない。人の真似ばかりしているような人はアーティストといえないんだ」と口をすっぱくして教えてくださった。その人のオリジナリティがどこにあるか。これだといえるものがある人が本当のアーティストだ。ハルミさんの仕事にはオリジナリティがあります。世界のファッション界のどこに出しても負けない獨創性があります。だから堂々たるアーティストですよ。

藤本 ありがとうございます。

## 「いい加減といい塩梅」で

新井 初めて三宮タイエー前の、アイリスの上のころげ落ちたら死ぬような狭くて急な階段を登っていった時、アトリエ、二階でしたよね？

藤本 初め二階だったけど後で三階になったのよ。

新井 そこへわが女房も連れていったんですが



もう15、6年前のことになります。お金もないのに一念発起して、女房のためにオートクチュールを発注してしまった。僕はいいと思ったからね、口だけじゃなくて、実際に行動する。つまり買わせていただいたわけです。

藤本 もうたくさん持ってらっしゃるものね。私、すごい理解者だと思っていつも感謝しております。

（藤本さんの洋服を実際に着ていらっしゃる紀子夫人もここから、参加していただきました。）夫人 外国に行ったりした時に、美しくしかもオリジナリティがあるっていうことが着ていく洋服を選ぶ上で一番大切なことでしょ。その一番大切なことが満たされているっていうことはとてもありがたいんですよ。着物はなかなか簡単に着れないけど、ハルミさんの服なら簡単です。なおかつ持ち運びにもいい。着心地も良い。

それに素材もいいものだから永く着られますね。新井 彼女は今、綸子の小紋で露文様のドレスを着てるでしょ。これをこの前フランスへいった時、世界中の文化人が集まるパーティーで着たんです。すると、異人さんたちはみな驚いてため息をもらす。

藤本 えー、なんで？何を？

夫人 あちらの何処の何々っていうブランドものとは、全く違うわけでしょ。色がきれいだし、光沢もある。いったい何でできてるのだろうとか。

藤本 へー。聞くわけ？あちらで言えばヘビーシルクだものね。インターナショナルなパーティーなら余計ね、みな褒めてくれるわね。

新井 日本ではあからさまに奇つてきたりしません。が、海外に行ったときは独創性が際立ってわかるらしくて、みな感嘆した表情で質問を浴びせてくる。

藤本 日本のシルクは生地としてすごいんですよ。みなさんが着物としてめったにお召しにならないのなら、素材を現代の形にして着てもらわないと、もったいないでしょう。だから私はマテリアルとして着物地をとらえようとしてるんですけど。

新井 これからハルミさんは、どうすべきか：。これまで通りで良いですよ。あんまり、頑張らないほうがいい。僕の幸福論に「加減と塩梅」という考え方があります。ええ加減が幸福の要諦です。もつと言うと塩梅がいいってこと。昔も今もハルミさんの場合は加減がいいよね。

塩梅もいい。

藤本 まあね。

新井 15年前もそういう感じだった。

藤本 私もそう思うわ。ちつとも進歩しないな！思つて。

新井 時代に合わせて進歩なんかする必要はありません。時代遅れと言われてもいいから頑固に自分の好きな道を歩くのがいい。それがハルミさんらしい生き方ではないですか。

藤本 着るものつてのは第二の皮膚だと思つてのね。だからおろそかにしてはいけないと。いつもフレッシユで、日本のこの氣候に適してて、着心地よく、美しく、日本人の心にぴたりくるような洋服をずっと追求していきたいと思つてるんです。

これは神戸を愛する人々の雑誌です。  
あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
これは神戸っ子の心の手帖です。

12月号目次 ●1993-1392

表紙／故小磯良平シリーズ「自画像」(東京芸術大学芸術資料館所蔵)  
セカンドカバー／西村 功「うえの製菓の店」

目次／杉山 知子

11 神戸っ子／香野 たつき

13 神戸っ子93／大内 優行

14 ある集い／新オリエンタル劇場管弦楽団・日本テレマン協会

15 コウベスナック／ジパンシティ来日・神戸クリエイション'93

16 こうべまちづくり会館オープン・喜びの「こもしびの實」

17 アートKOBÉ／八木 茉莉子

18 神戸の詩・最終回／「雪雲到来」小林 政夫

19 私の意見／「新しい神戸」に常に活発な論議を！堀見 薫

20 ボエム・ド・コベ／「師走の街」土居 宣子／絵・石阪 春生

21 随想二題／知念 正文・並川 明子

22 れんさいエッセイ／「国境を越えるイルカ」三枝 和子／え・元永 定正

23 私と神戸／「神戸とわたし」経原 武春／絵・瀬本 唯人

24 地域文化論／「常盤も世界ではさまざま」田山川とナイル川」田辺 貴人

25 ビッグ対談 新神戸オリエンタル劇場5周年に寄せて

26 中内 功 VS 藤 剛

27 特集①神戸の食文化を考える／石毛 直道 VS 農村彪生

28 特集②「食」の時代に向けて、神戸に情報集積発信の機能を！

29 松宮 隆男・諸岡 博雄・岩田 弘三・西村 隆治

30 特集③食べた、聞いた、話した／グルメロムナード

31 ファッションズボット

32 神戸っ子同窓生交歓／長田高校の同期生

33 シュガーランドを探して。⑧／「S. Hoory Christmas Town」白羽 悠仁

34 藤本ハルミの季節の女／「東のし」カメラ・藤原 保之

35 亀井一成のズーム・IN・ZOOO

36 ふたたびプロフェッサーPの研究室／岡田 淳

37 大手前教授のクロスカルチャーエッセイ'93⑧

38 「ハリウッド映画に見る日本」横井 有

39 話題のひろば／追悼・上島忠夫

40 話題のひろば／ロードニー賞

41 福岡サミット／かともみのる

42 KFSニュース

43 有馬政時記「茶室・雅中庵」

44 神戸を福祉の街に／「職場復帰した車椅子の広報マン」橋本 明

45 モダンカルチャー

46 シネマ試写室／「ハイビー・オブ・マコン」渡川 長治

47 びっといん

48 神戸百店会たより

49 ポケットジャーナル

50 神戸っ子倶楽部会員情報

51 第17回神戸文学賞佳作／「二大事」最終回 平井 彰花／絵・大橋 貞三

52 北野マッパ

53 愚いでつづる歌歌・源氏物語⑧／「美」国広 節夫・国広 富美子

54 海・船・港／「ボートタワー30周年」カメラ・米田 定蔵

55 カメラ／米田定蔵 池田年夫 松原卓也 森田寛志 森田純三 藤原保之

米田英男





# HARUMI FUJIMOTO

## “流れる季節に” 藤本ハルミ作品集

日本の伝統美きものの地を素材にモダンな洋服づくりを25年  
積み重ね、今そのライフワークを作品集として処女出版！

### ■作品集によるファッションパーティ

12月14日（火）P.M. 6：30～9：00

於／新神戸オリエンタルホテル真珠の間  
チケット ￥20,000（作品集を含む）

作品集内容／ Part I 月刊神戸っ子連載の作品とエッセイ “季節の女”

Part II 25年間の代表作品とパーティドレス集

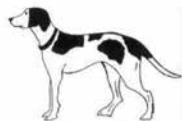
Part III 対談／ 田辺聖子・新井満・森美代子

出版と主催／ 月刊神戸っ子 神戸市中央区東町113-1 大神ビル9F

お問い合わせ TEL 078 (331) 2246 FAX 078 (331) 2795



**MAC**  
オリジナル  
トレーナー



HALDEN HOUND

ボク、  
ホールデン  
ハウンド犬の  
“マック”です。  
KOBEの  
人気者です。



**MERRY CHRISTMAS!**

ボク、  
ゴールデンリトリバー犬  
クウラ君で〜す。  
クリスマスだあい好き。  
プレゼントも  
楽しみだな♡♡

MACオリジナルトレーナー  
5色M, L Xサイズ ¥5800

**MAC**  
SINCE 1895 KOBE

HEAD OFFICE 7F NEW CENTER 1-6-22/SANNOMIYA-CHO CHUO-KU KOBE CITY 078-392-1651  
SANNOMIYA MAC  
THE BLAZER SHOP MAC  
DOLCE MAC  
PLENTY MAC  
FESTA MAC  
BENETTON MAC  
SUNVIOLA MAC  
SANNOMIYA CENTER-GAI 1 078-391-0895  
TOR-ROAD 078-391-0896  
SANNOMIYA CENTER-GAI 2 078-332-0141  
SEISIN PLENTY 2F 078-992-0088  
HIMEJI FESTA 2F 0792-89-4738  
AKASHI FORUS 4F 078-913-8142  
TAKARAZUKA SUNVIOLA 3F 0797-71-4830

撮影協力/北野町 杉良太郎資料館

# MERRY CHRISTMAS & HAPPY NEW YEAR

おかげさまでエステティックサロン ゲランパリ・  
ホテルオークラ神戸店も2周年を迎えました。



今後ともご愛顧頂きますようお願い申し上げます。

*Esthetic Salon*  
**GUERLAIN**  
PARIS  
ホテルオークラ神戸店

神戸市中央区波止場町2-1 メリケンパーク内 ホテルオークラ神戸7F Tel(078) 391-7811

年末年始も営業致します



□私の意見

# 「新しい神戸」に 常に活発な論議を

塩見 薫

△NHK神戸放送局長▽



師走、最後の挨拶は「さようなら」ではなく「良い年をお迎え下さい」と別れます。去年の師走もそうでした。さて今年、私達は良い年を迎え、過すことが出来たのでしょうか。全国的に見れば、不景気、不況の底は見えず、人員整理、賃金カットの声も聞こえ始めました。各地をおそった津波、水害に加えて夏の無かった様な天候は冷害による深刻な米不足をもたらし、久しく死語となっていた米泥棒という言葉がニュースに登場する様になりました。

自民党が分裂して、連立政権が登場、このきっかけとなった大手建設会社と政治のゆ着を軸とする汚職の摘発はどこまで広がるのか、終点は見えないまま継続中です。事件、自然災害、変革、報道にかかわっている人間としては、ニュースに追いまぐられ、ある意味ではニュースに恵まれた年でしたが「良い年でした」とはとても言えそうにない一年でした。

平成五年という年は、後世、変化、変革の始まった年あるいは政治、経済など広い範囲で過去の「つけ」の清算が始まった年と記憶されるかもしれません。

ひるがえって、神戸にとって今年はどうな年だったのでしょうか。全国的に広がる経済不況の影響は避けることは出来ないにしても、街には活気がありました。

自然災害も無く、悪いニュースも無し。半年間にわたって開かれたアーバンリゾートフェア<sup>※</sup>では五百余りのイベントが、それぞれ、明るくお洒落に開かれて活気を呈していました。神戸にとって今年は「良い年」とは言えないまでも、まずまず安定した年だったようです。

そういえば、十月の市長選挙も全国的にも余り例の無い九党相乗りの選挙で、完全に無風選挙、報道の面ではきびしい当確判定をすることもなく平穏な選挙でした。

安定しており、平穏であることは良いことです。しかし、安定が常に現状肯定であって、変化を築めないものであっては進歩に結びつかないのも事実です。新しい神戸を考える、市民の論議は、常に活発であって欲しいと思います。では「良いお年を、お迎え下さい」。



After



Before

わずか2時間、画期的若返り術

顔全体のシワやタルミが気になる方には「若返り法」の手術をお勧めします。この方法なら顔全体に張りをもたせることで5～10歳も若返ることができます。若返り法は60万円。

◆額の横ジワ・目頭の悩みも

お顔ばかりでなく、額の横ジワや、目頭が被って目が見えにくくなる人も、安全・確実に悩みを解消できます。額の横ジワ取り40万円。目頭を整える16万円。

◆厚ぼったい顔・目の下のシワ

顔がかぶって重たい感じのする方は二重瞼に、目の下のタルミのせいで老けて見られる方は目の下のタルミ取りを…二重術12万円、目の下のタルミ取り20万円。

◆ポッコリした下腹部も

年と共にタルミが気になり出す下腹部の余分な脂肪も、最新脂肪吸引法でスッキリ。二度と太る心配ありません。下腹部の脂肪取りは38万円。

※カウンセリング無料

PRESENT



美容整形に関する最新情報を満載した本「スーパ一美容術のすべて—美しさ自由自在」(品川美容外科監修)を抽選でプレゼント。ご希望の方はハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を書いて下記の宛先までお送り下さい。

〒108 東京都港区港南2-6-3 新富ビル3F  
ビューティークラブ「スーパ一美容術のすべて」  
プレゼント 神戸っ子係まで

24時間無料テブ案内

0120-006477

品川美容外科形成外科

078(331)7183(女性)

078(331)4102(男性)

診療時間/AM10:00~PM7:00(年中無休)

※各種クレジットカード・ローン可

大阪 06(312)1420(女性) 京都 075(344)3386(女性)



神戸市中央区三宮町  
1-3-3 小林ビル6F

To wish you  
a Merry X'mas

あたたかい集いの輪の中に  
X'mas デコレーションケーキ。



バタークリームケーキ 各1,800円～  
チョコレートケーキ  
生クリームケーキ 2,500円～



株式  
会社

北 欧 の 銘 菓  
2-ハイム・コンフェクト

本 社 〒651-21 神戸市西区北別府2-1-2  
TEL(078)974-9756 FAX(078)974-9758  
大阪営業所 〒558 大阪市住吉区茨田町7丁目12-19  
TEL(06)697-9435 FAX(06)697-4188

東京・名古屋・大阪・神戸

# 師走の町

土屋宣子

絵／石阪春生

斜めに走り出す粉雪と風

たそがれはフィナーレに向かって

少し足早に動きはじめる

大晦日のほろ苦い悔恨は

八百屋の軒先に積み上げられた大根と一緒に

すこしずつ引きぬかれ

やがてきれいさっぱり持ち去られる

托鉢の僧の素足があかくちぎれて

夕闇が追いかけていく

ひとときわ激しい呼びこみの声に

立ちどまるねんねこの背中

一層まあるくなつてたぬき寝入り

そして

新しいカレンダーはどこにかけよう





# 随想 二題

## 画文集

## 「琉球紀行」

## 知念正文

△二紀会会員▽



昭和44年に私は初めて沖縄の土を踏んだ。父の故郷でありながら戦争などの影響でそれまで行く機会がなかったのである。

初めて見る沖縄は私の目には何もかも珍しく感動的なものだった。

強烈な太陽のもと、光り輝く青い海、緑なす亜熱帯植物、赤瓦の民家やシーサーを見た時、私は一種の胸の高鳴りを覚えたものである。魂をゆさぶられた私は以来沖縄のとりことなり数回にわたってかの地を訪れ、思いのままに歩きまわった。

スケッチブックを片手に、焼

つくような土を踏みしめて歩いていくうちに、私は自分の中に「沖縄の血」が脈打っているのをはっきりと感じた。そして沖縄は私にとって最も魅力のあるモチーフとなった。ひたむきに生きる人々の姿から人間の生命の歩みを、沖縄の土俗性を秘めた独特の風土をキャンパスの上に熱く描いてみたいと思った。

過去約25年にわたって私は沖縄のあちこちを歩いて来た。沖縄本島はもとより石垣島、竹富島、西表島、久米島、与那国島等の離島へも足を伸ばした。スケッチブックも数冊になった。その中から心に残った25点の風景を選んで画文集にまとめこのたび出版した。

さて私にとって初めての本がこの10月中旬に出来上がった。早速沖縄へ行くたびにお世話になっている那覇市に住むいとこに送ったのだがすぐに電話がかかってきて「私たちの住んでいる所をこんなに美しく描いてくれてありがとう今まで何とも思っていなかった自然や街のすばらしさを改めて認識したわ。文を読んでいるとなぜか涙が出てくるよ。私たちのふるさと芸術家の手にかかるとこんなに変わるんだね……」などとえらく感動してくれ、友人にも読ませたのであと10冊送ってほしいと言って来た。やはり親戚は有難いも



1990年1月那覇市・壹屋町にて

のである。いとこはすでに60をいくつか越え、あの沖縄戦の体験者である。一つ間違えばこの世にいなかったかも知れない。生死の境をさまよったあげく、今は元気に暮らしていることが不思議といえなくもない。そんな彼女が私の「琉球紀行」を見て、万感胸に迫るものがあつたのかも知れない。

普段は主として油絵を描いている私がこの画文集に収めた25点の作品をすべて水彩画とした。水彩のぐは乾きが速く、感情の高まりを維持したままで一気に描き上げることが出来るからである。

画文集の出版にあたって私は、沖縄という美しい常春の島に再び不幸な歴史が繰り返されることなく、永遠の平和が続くことを祈っている。

## 「私の小さな

## 美術館」

並川明子

和弘学園理事長  
塩屋・明舞・桃  
の木幼稚園園長



神戸から車でおよそ二時間、兵庫県西北、氷の山の南にある宍粟郡波賀町は、十一月上旬になると山々の紅葉がすばらしく、国道29号線をドライブしても引原ダムに近づくにつれ歓声をあげたくなる景色が右に左に現われます。戸倉スキー場もあり冬の寒さは厳しく雪も積り、まるで信州のよう、この風土を利用してリングを植栽し、八月から十一月迄この町でリング狩りも楽しめます。

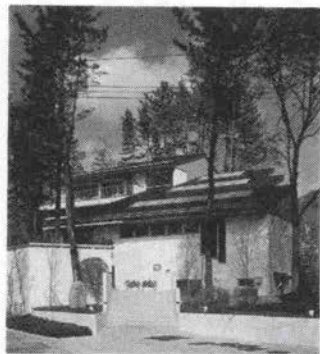
四季折々の美しい風景に魅せられて、引原ダム（別名音水湖）の畔に、私の還暦と夫の二十三回忌を記念し小さい美術館を開館してから早や三年がたちました。午年にオープンしたので最初はその年にちなみ馬の絵や置物ばかり展示しました。その後三年間に十五回の企画展を開催、現在は第十六回展「仏画・仏像・墨跡」を開いています。これは当美術館初代館長の井尻昌一氏（元神戸市助役・初代市立博物館館長）が本年七月急逝され、そのご冥福を祈るために企画したものです。当館館蔵品は二

十五年前他界した夫の集収した書画が中心となっており、今回の展示品もそれらを主に飾っています。日本画の大橋良三先生より大日如来像一幅、垂水歌敷山の通照院より（夫の菩提寺）弁榮聖者御筆の観音立像と法然上人和歌（二首左右両手同時書）広島大学名誉教授山本空外上人の墨跡二点、智恩院門跡山下現有上人の書一幅の五点引原の長源寺より高野山管長寛紹上人の書と先住上人の観音心経の二幅をご出展頂きました。一室は主に観音等の仏画を、二室は名僧門跡、管長の墨跡を、三室は墨跡と達磨の絵を飾っています。また兵庫県仏像彫刻協会も主旨にご賛同頂き、会員の力作約四十点をご出展下さって見ごたえある展覧会となりました。過日館長を偲ぶ会を催しお親しい方々に集まって頂いて、お心の広い優しいお人柄をこもこも語り合い、ご遺族もお喜び下さいました。

本年も年末で一応休館とし来春三月末より再び開館します。初年度は冬も開館しましたが、一晩に五十糎も雪の積る日もあり、軒に長いつららの下る土地柄ゆえ、除雪し暖房してお待ちしていても一人の入館者もない日が多く、二年目から冬は休館としました。毎年この間を利用し階上にあるレストラン・アルカンシェル（虹）のシ

エフはフランスへ料理の勉強に出かけています。

小学生の頃は図画が下手で嫌だった私が美術館をつくる事など夢にも思いませんでした。そして数学一筋で全く無趣味だった夫が美術に興味をもち収集を始める事も予想もしていませんでした。然し夫の父は書画を愛し貧しい中にも永年これらを集めて楽しんでいった由、私の母も絵が好きで季節に合せ掛け替えて幼ない私達に説明していた事を思い合わせ、小さい時に心に種播きをされていたのだと思います。私自身の子育てでも終り振り返って見ると、親の毎日の生き方や生活、即ち環境が子供に与えた影響の大きさをしみじみと感じます。幼児期によい音楽を聞いた、美しい物を見たり、自然の移り変りを楽しむことを親と共に経験することが、将来心豊かな人生を送る為に最も大切ではないかと思っております。



音水湖畔和弘美術館外観

# 国境を越えるイルカ

三枝和子(作家)

え・元永定正

先だって、どこのエッセイだったか、ひょっとしたらこの「神戸っ子」だったかもしれないが、トルコからギリシアへの国境越えをした話を書いた。昨年春のことである。

この国境越えというのは、いつも一種の緊張感があつて海外旅行とはこういうものだ、思い知らされる。ただ現在はEC間の往き来は自由だし、他の遠い国に行く場合はたいてい飛行機なので、国境越えの緊張感が味わえる機会は少なくなつた。しかしギリシア・トルコ間は近いだけにバスにしろ船にしろ、国境を越える機会が頻繁にある。その上、トルコは非EC圏に属し、ギリシアはEC圏に属している。アジアとヨーロッパの境がここにあると言ってもよい。遠い昔、ギリシア・ローマ時代には地中海文明として一つに結ばれていた歴史があるにもかかわらず、ごく最近までオスマン・トルコ支配を悪夢として覚えている人がいた。いや、いまも、トルコという意識を硬化さずギリシア人がいることを私は知っている。そんな民族感情のなかで、英語が下手で、ギリシア語がぼちぼち、トルコ語はさっぱり、という私が友達二、三人(いつも私と同じオバタリアン)を連れて国境越えをするのである。あとから思い

出せば珍無類だが、そのときは必死、という話もずいぶん多い。

この十月の初めも、そんな目に遭つて来た。今度の連れは私より二つ年下の元編集者、英語は私とチョボチョボ、ギリシア語、トルコ語さっぱりという女性である。ギリシアのサモス島からトルコのエフェソスへ渡つて見ようと思うが行くか、と聞くと行くと言う。

「面白そうね」

「面白いかも知れないけど、かなりドキドキものよ」

「ドキドキもの大好き」

それで決定した。私はアテネからサモス島へは一度行つたことがある。トルコのエフェソスへも、これはバック・ツアーだったけれどエーゲ海クルーズの一環として一度行つたことがある。しかしサモスからエフェソスへ渡つたことはないのだから初体験である。

サモス島へ着いてからトルコのクシャダン行きの船の切符を買えばよい、クシャダンからエフェソスは車で三十分くらい、と聞かされてアテネを飛行機で出発した。サモスのホテルはアテネで手配してもらつていたので安心して、島内のヘラ



の神殿だとか博物館だとかを見学して、夕方、教えられた観光案内所へ行った。案内所は三ヶ所のエージェントを紹介して、そのどれかで船の切符を買うとよいと指示してくれた。ぶらぶら歩いて一番近い事務所に入って切符の交渉をした。日帰りだという往復の切符代を請求し、切符は翌朝船に乗るときに渡すからと領収書をくれた。それからパスポートを超越せ、と言う。

「えっ、パスポートを預けるの」  
二人は顔を見合せた。いつも生命から二番目に大事なもの、と思つて旅をして来たのでそれを手放すのがひどく心許ない。しかし事務の女の子は何気ない口調でこれは明日乗船するときにお返しする、と言う。

「そんなこと言つたつて……」  
しかし女の子はポリスが来ているから安心だ、とにこにこしている。こちらのシンパイは全然通じてない。仕方ないから、パスポートを預つた、



というサインをしろ、と言うと、そんなことはやることがないと困つた顔になったが、こちらが執拗く言うのと領収書の欄外に「パスポート」と小さな字で書いた。

さあ、それからが大変だ。ホテルへ帰つたが二人とも不安で眠れない。

「やっぱり、馬鹿だと言われるだろうなあ。パスポートを見も知らぬ人間に預けてしまうなんて」  
「そうよ、落着いて考えると、やはりおかしいわよ。事務所ぐるみで悪いことしてるかもしれない。日本のパスポートは高く売れる」

「だけど、観光案内所が紹介してくれた事務所だよ。信用するしかないじゃない」

「あの段階で、もう一ヶ所別の事務所をあたるべきだったかなあ」

さんざん悪案として、酒の勢いをかりて眠つた翌朝、船着き場に現われた事務所の男の鍵のかかった小さなトランクのなかから、数十人の乗客のなかに混つて菊の御紋が二冊出て来たときの嬉しさ。いそいそと乗りこみ、快晴のエーゲ海をトルコに向つて出発した。

船旅は約三時間と案内があつた。友達と二人甲板に出て一時間ばかりすると、前方で喚声があがつた。何だろうと目を転ずると、イルカだ。大きなイルカが三頭、船について泳いで来る。エーゲ海を旅行中、これまでに二、三度見たことがあるがこんな大きなのは初めてだ。しかも愉しように何度も何度もジャンプしてくれる。このままトルコまで行くのだろうか。友達が大きな溜息とともに言つた。

「イルカはいいなあ。パスポートなんか要らないんだよねえ」

## □随想□私と神戸

## 神戸とわたし

延原 武春／日本テレマン協会代表・音楽監督／絵／灘本 唯人

神戸に住むようになってもう10年になります。大阪生まれの大阪育ち。大阪に居る頃の私にとつての神戸は年に一、二度訪れる興味溢れる街でした。そして大阪から移り住むようになったのは、ひとりの友人との再会がありました。

大学を卒業してしばらくした頃、風の便りでアメリカに行ってしまったとは聞いてはいましたが、まさか帰国しているとは思っていませんでした。

テレマン協会が10周年を終え、ようやく形のつきはじめた一九七五年頃のことです。夙川教会の教会音楽シリーズで、初めて取り組んだバッハ作曲「ロ短調ミサ」の演奏会の当日ゲネプロ（演奏会前のステージ練習）を終えてホッとしながらも、初めて指揮する大曲への不安と期待の入り交じった、複雑な気分のまま教会の石段で一息入っていました。丁度その時石段を上がって来る人の中に、どこことなく見覚えのある人をみつけました。はじめは、お祈りに来た信徒さんだろうと思いましたが、しかし「ヤア、久しぶり！」の一声でそれがアメリカにいるはずの彼であることに気

づきとても驚きました。バカていねいな挨拶をゆつくりと交わす間もなく卒業後の渡米の理由、そして帰ってきて新しい仕事を始めることなど、昔と同じ希望に満ちた顔つきで、一気にしゃべってくれました。

私たちが学生だった60年代の始めは、まだ「ハングリー精神」という言葉が通用していた時代です。学生運動も活発でしたし「どうしたら飯が食えるのか？」を真剣に悩んでいました。反面、いろいろな憧れも多かった時期です。互いに芸術論に花をさかせ将来の夢を話したり、お互いの専攻に音楽と美術との違いこそあれ、けっこう楽しい時間を分かち合えたものでした。

この偶然の再会を期に、神戸に出向くことが多くなりました。それまで歴史でいろいろ学んでいたこと、例えば開国時のヨーロッパ人が、山と海が余り離れていない入江を選んで街を作ったことや、日本人パワーが結束した明治維新、西洋文化の中心が神戸であったこと等、ひとつひとつの史実の光景を目の当たりにして、かつて興味のあった神戸という街が、なお一層とても身近に感じられ



るようになりました。神戸という街は、何より先取りの気質があり西洋人とのコミュニケーションをうまく計り、独自のインターナショナルな文化を確立し過去の一時期には日本で一番重要な西洋文化の玄関口であり続けました。その頃、音楽界では多くの名演奏家が居をかまえ、盛んに日本各地から神戸へその技を習いに来ていたことなど音楽家の私としては非常に感慨深いことです。

さて、最近の神戸での生活で少々気がかりなこととは、やはり自分の専門分野のことです。日本テ

レマン協会も今年で30年を迎え、関西文化の一役を担ってきました。一九八〇年頃は神戸でパッハのシリーズを手がけたこともありましたが。

神戸市は室内合奏団を持っていますが、残念なことになにに東京の演奏家たちの、いわば植民地的な支配が続いており、楽団の発展には余りにも不足な状況であるといわざるを得ません。室内楽団こそ、その土地々々で独自に上達し、その過程をみんなで見守り認知し、支援し発展させて行くものです。やはり自然な発生と自由に育つ環境が一番の基本です。一度消えた演劇の火は新神戸オリエンタル劇場の活躍で再び燃えだしています。とても楽しいことで、多くの人が期待しています。また最近劇場付きの室内オーケストラが設立されました。これもおもしろい試みといえなくはないですが、出発時点で既に大きな疑問も同時に感じます。お役所や企業の方々が思われる程、簡単にはいかないのが室内楽団の活動でしょう。大きなオーケストラの方が、むしろうまくいく可能性が高いと思われます。現実とのギャップをどのようにして行くかが課題だとおもいますが、ともあれ神戸にすることは楽しいことに違いありません。夢を見えています。西洋文化をうまくコーディネートした先輩たちを見習って「21世紀は神戸から！」――



△延原武春氏のプロフィール

指揮者。早く作曲家テレマンの作品に着目し日本テレマン協会を組織。以後、関西をその拠点としてその足跡は日本全国に及ぶ。また、ヨーロッパを始め数多くの海外演奏旅行を行い好評を博している。井植文化賞、ブルメール賞他受賞。